



## 真神之道 愛以貫之

生田 いくた  
香緒里 かおるり  
(女子中学校・高等学校教諭)

新島裏は一般的には教育者として知られているが、伝道者としての使命をもって1874年、アメリカから帰国したのであった。この言葉は、新島が1886年、同志社分校を設置するために仙台を訪れた際、仙台教会で行った説教の中で語られた言葉である。

その中で「キリスト教の神の愛はすべての人に与えられ、神はどんな時でも私たち一人ひとりのために配慮され導こうとされている。しかし、私たちはそのことを忘れがちである。キリストは私たちと共にいて私たちを救うために、身代りになって苦しみ十字架で死なれた。そのようなキリストの愛は広く、深く、高い。愛は忍び、ゆるすものである。一見弱々しく無力に見えるが、だれもその愛に逆らうことはできない。神はこの愛をもって、私たちを近くに引き寄せ、今も私たちの心に働きかけている。」と語っている。

新島が、同志社の徳育の基本にキリスト教を据えた理由はここにあるのだといっても良いだろう。キリストが弱い立場の者に手を差し伸べ、社会のために行動したように、同志社に学び、働く者に新島が望んでいるのは、神の愛を知り、その愛をもって行動を起こし、この社会に生きることであったにちがいない。